

<全体分析>

試験時間 90 分

<p>解答形式 記述(70点)・論述(30点)</p> <p>分量・難易(前年比較) 分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化) 大問4題・小問70問・論述2問</p> <p>出題の特徴 時代別では、「原始・古代」「中世」「近世」「近代・戦後」でほぼ四分割の配点は例年と同じ。戦後は1960年代後半の文化庁の設置までが問われた。分野別では、政治から45%程度、社会経済から30%程度、文化から15%程度、外交から10%程度出題された。</p> <p>その他トピックス(入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など) 大問IV-(1)は、2019年度完成・実戦シリーズ河合塾テキスト『総合日本史(論述編)』第7章基本問題5で、大問IV-(2)は、2019年度完成・実戦シリーズ河合塾テキスト『総合日本史(論述編)』第10章基本問題5で、それぞれ類似のテーマを扱っている。</p>

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 <史料>	古代・中世・近代 政治・経済	A 清和天皇の死去(『日本三代実録』) B 建武の新政への批判(『神皇正統記』) C 北一輝の国家改造構想(『日本改造法案大綱』) (1)清和天皇の即位時の数え年を問う問題は詳細で難しい。 (2)「忠仁公の養子」から藤原基経と判断し、関白と解答したい。(7)(9)はそれぞれ(8)(10)をヒントにすれば推測は可能。 (13)史料第2段落から「高氏」(足利尊氏)らが高位高官に昇っていることが非難されていることを読み取りたい。	標準
II	記述 (短文空欄 補充)	原始～戦後 総合	①縄文時代の石器 ②水稻栽培の波及 ③豪族居館と群集墳 ④飛鳥文化の開花 ⑤鎌倉時代の産業 ⑥後鳥羽院政期の文化事業 ⑦後嵯峨院政期の朝幕関係 ⑧室町時代の日朝関係 ⑨幕末維新期の来日西洋人医師 ⑩戦後の文化財行政 基本事項からの出題が多いので取りこぼしに気を付けたい。	やや易
III	記述 (前提文)	古代・中世・近世 政治・文化	A 7・8世紀における中央集権国家の構築 B 鎌倉・室町時代の仏教 C 江戸幕府の直轄領支配 ア大化改新の際に設置された地方行政組織として「評」を想起したい。(4)貴族の子・孫が対象であること、父・祖父の位階に応じて位階が与えられたことを簡潔に述べたい。(15)人形浄瑠璃を「興行」という表現から近松門左衛門ではないと判断したい。	やや易
IV	論述	近世・近代 政治・社会経済	(1)田沼意次の財政政策 年貢増徴を基調とする享保の改革と商業資本を重視する田沼意次の財政政策の違いを念頭に、株仲間の大幅公認・専売制の拡充・長崎貿易の拡大などについて、その意図・目的にもふれつつ述べたい。 (2)明治・大正期の社会主義運動の展開 明治・大正期の社会主義運動について、具体的な歴史名辞だけでなく、運動の背景となった社会状況などを述べるとともに、政府による弾圧にもふれたい。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準に判断しています。

- ① I～Ⅲの記述式 70 点、Ⅳの論述 30 点の配点を念頭に置いた学習計画を立てることが大切である。
- ② 全時代・全分野からまんべんなく出題される。I～Ⅲの記述式で高得点を確保するために、教科書を欄外の脚注なども含めてマスターしたい。
- ③ Ⅳの論述問題は対策の有無によって得点差がつく。早い段階から学習対策を立てて問題演習を行い、できる限り添削指導をうけること。
- ④ 史料問題は基本的に未見史料から出題されるが、市販の史料集などを利用して日頃から史料に慣れ親しんでおきたい。
- ⑤ 京都大学特有のひねりをきかせた設問対策として、夏期・冬期・直前講習および京大入試オープン・河合出版『入試攻略問題集 京都大学 地理・歴史』などの積極的な利用を薦めたい。